

高松市議会 ● 平成29年12月 ● 一般質問

6月議会の代表質問では、10年20年先の未来を見据えた中長期のまちづくりについて質問しましたので、今回は日ごろの地域活動などを通じて市民と一緒に汗する中で気が付いた、今すぐ改善が必要だと判断した事柄について質問をしました。

Q1 市民主体のまちづくりについて

- ①自治会加入促進に対するアンケート結果のとりまとめ状況と今後の改善への取組み
- ②地域担当協働推進員制度見直し後の課題を踏まえた今後の取組みについての考え
- ③政策コンテストを充実する考え

Q2 防災に強いまちづくりについて

- ①台風18号の教訓を踏まえた危機管理能力の高い職員の育成
- ②早期に災害時要援護者支援体制を構築する考え

Q3 市民と創る地域ポイントシステムについて

- ①地域通貨やポイント制度の活用について積極的に取り組む考え
- ②マイキープラットフォーム活用に取り組む考え

Q4 議選監査委員の選任方法の見直しを含め監査制度の充実強化に対する考えについて

Q5 創造都市の更なる推進について

- ①就業支援推進事業を強化する考え
- ②国際交流を更に推し進める考え



私が考える議会質問とは日ごろの政務活動等を通じて課題をまとめ、よりよい市民生活のための提言をする場だと考えています。

高松市議会の過去の会議録やインターネット議会中継はホームページでご確認いただけます。



活動報告



●1月13日 (株)Woriks(ウォリクス)が主催する、ヒトデTALK vol.2「なぜひきこもりを雇用する？」に参加しました。「『ひきこもり』と『働く』を考える」と題して、障がい者やひきこもりなど、様々な「個性」ある社員を積極雇用している(株)サニーサイド代表取締役の多田周平さん、ひきこもりの相談事業を始め、ご家族、支援者、企業向けの教育事業や若者のコミュニティ事業などに取り組む(一社)hito.toco代表理事の宮武将大さんをパネラーに、人材不足時代に打ち勝つための「個性ある人材の活用」について対話しました。民間事業者が「個性が共生し調和が発展を生む」との経営理念の下で、自社の働き方を分解・分析して誰もが平等に働ける、その人にあった働き方を提供している取組みを学びました。

●2月15日・16日 「未来を見据えた若者支援と親支援の充実を目指して」と題した、地方議員研究会に参加しました。講師は不登校生徒の復学支援や家庭教育支援の現場で活躍する傍ら、大東市の教育委員や国の若者支援における有識者などを担っている、家庭教育支援センターベアレンツキャン代表理事の水野達朗氏。10年後の自治体に影響を与える若者支援について、大人のひきこもり問題からはじまり、不登校支援への民間支援の視点からの問題点、福祉と教育の縦割りを乗り越えるための取組みに至るまで、体系的に解説いただきました。「福祉と教育への社会投資」が如何に重要であり、自治体に大きな便益を与えることができるのか、明確にいただきました。また更に、ネウボラ(子育て支援包括支援センター)と訪問型家庭教育支援の連動の重要性・可能性を学ぶことができました。



相談やお気づきの点がありましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。

党員に限らず、どなたでも結構です。 E-mail: info@haruta.jp



高松市議会議員
春田 敬司
はるた けいし

1967年 兵庫県神戸市生まれ
国立高松工業高等専門学校機械工学科卒
(有)シャフトブレイン代表取締役(経営コンサルタント)
平成19年4月高松市議会議員初当選。妻と大学生の娘・息子、愛犬1匹の5人家族。愛読書は「三国志」、「永遠の都」。ポリシーは「認識せずして、評価せず。」

春田敬司のオフィシャルサイト

http://www.haruta.jp



● 主な活動実績 平成29年9月～平成30年3月

- 9月6日～21日 高松市議会第4回定例会
16日 姉妹城・親善都市と交流都市の観光と物産展 出席
〃 香川大学MBAが考える地域の未来を提言するシンポジウム 参加
- 10月2日 決算委員会
4日 教育民生常任委員会 視察/東植田小学校
5日 ICTプロジェクトチーム 視察/下関市
6日 ICTプロジェクトチーム 視察/呉市
10日 決算委員会 出席
11日 決算委員会 出席
16日 決算委員会 出席
18日 ミャンマー連邦共和国 タンダリー管区からの訪問団をお迎え
20日 高松市まちづくり学校 地域チャレンジ塾2017 参加
21日 ダイアログBar高松2017 参加
24日 ドイツに学ぶ持続可能な地域づくり 講演会 参加
27日 香川県小学校教育研究会 国語部会研究発表会 視察/弦打小学校
31日 教育民生常任委員会 視察/つくば市
- 11月1日 教育民生常任委員会 視察/東京都板橋区
2日 決算委員会 出席
5日 政策コンテスト「未来高松市2017」傍聴
6日 決算委員会 出席
7日 教育民生常任委員会 出席
9日 香川県中学校教育研究会 技術・家庭科部会研修会 視察/勝賀中学校
12日 弦打校区防災訓練 開催
13日 高松第一高等学校生徒と高松市議会議員による意見交換会 出席
14日 予算案とりまとめ
17日 高松市まちづくり学校 地域チャレンジ塾2017 参加
〃 NPO法人わがこと設立会 参加
〃 創造都市推進懇談会・アンダー40 傍聴
19日 全国育樹祭 参列
25日 香川高専交流会 参加
27日 議会防災研修・タブレット研修 出席
〃 市長への予算要望
28日 教育民生常任委員会 出席
- 12月2日 (社)ひかりエコ・エンジニアリング会の国分寺町増設作業所の開所式 参加
6日～20日 高松市議会第5回定例会
9日 公明党香川県本部政策要望懇談会 出席
16日 第27回香川県ボランティア・NPO交流会 参加
- 1月5日 初市祈願祭 出席
7日 消防出初式
8日 オリーブ卒業生・親の会 成人式 参加
●13日 高松市まちづくり学校 地域チャレンジ塾2017 みんなの学縁会 参加
〃 ヒトデTALK vol.2「なぜひきこもりを雇用する？」参加(活動報告あり)
〃 14日 (社)ひかりエコ・エンジニアリング会 新春交流会 参加
20日 弦打地区社会福祉協議会「すまよいまちづくり」研修会 参加
25日 瀬戸・高松広域連携中核都市圏の講演会 出席
27日 たかまつ子どもサミット 出席
28日 高松市芸術士派遣事業の活動報告「きょうなにするん展」参加
30日 教育民生 調査会 出席
- 2月3日 ダイアログバー Bar高松2017 参加
7日 ママの働き方応援隊 視察/太田小学校
8日 高松市教育総合会議 傍聴
9日 第20回香川県議会議長会議員研修 出席
地方議員研究会 参加(活動報告あり)
19日 子供の貧困対策マッチング・フォーラム 参加
20日 さぶみっと!ヨクスル in 高松 参加
21日 「障がいを持って生まれた子を育てながら働くという希望」参加
22日 教育民生常任委員会 出席
24日 スマートシティたかまつシンポジウム2018 参加
26日 当初予算説明会
- 3月2日 高松第一高等学校卒業式 参列
5日～26日 平成30年 高松市議会第1回定例会
5日 「若者たちと未来を語ろう」参加
10日 弦打・防災部会の災害園上訓練研修会 開催
16日 高松市弦打小学校卒業式 参列
〃 ハタモク瀬戸内「向のために働くのか?」参加
24日 つるピーポーターバンク研修会 参加
26日 高松市防災合同庁舎(危機管理センター)内覧会 参加

平成29年9月～平成30年3月の市民相談件数81件 [累計1,409件]

● 会計報告 政務活動費 平成29年度

経費の区分	金額	高松市議会では、他の議会 で政務活動費の不祥事が 続いたこといち早く対応し、 他の議会より厳格であつた「政務活動費の 基準運用指針」をさらに厳格に 改め、収支報告書及び添付書類の 全てについて、ホームページ上で の公開を開始しています。
1 調査研究費	100,422	
2 研修費	231,738	
3 広報費	539,582	
4 広聴費	0	
5 要請・陳情活動	0	
6 会議費	25,800	
7 資料作成費	91,623	
8 資料購入費	111,151	
9 人件費	0	
10 事務所費	0	
合計	1,100,316円	

春風通信

高松市議会議員 春田敬司 と明日を考える。

はるかぜつうしん

これからの働き方を考える

vol.13
2018 SPRING

共生社会に、目指すべき働き方のヒントがある。



人口減少に伴って人手不足が深刻化しています。その一方で、働きたくても働けない人がいます。誰もが必要とされる共生社会を目指すことは、これからの働き方を考えることは、密接に結びついているのです。



高松市は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるホストタウン及び共生社会ホストタウンとして登録されました！

本年9月1日、2日に屋島レグザムフィールドで四国初となる日本パラ陸上競技選手権大会の開催が決定しており、その際には全国から多くの選手及び関係者、また観客の皆様が本市に訪れるものと期待されております。今後、オリンピック・パラリンピアンとの交流やユニバーサルデザインのまちづくりなど、スポーツの振興や教育文化の向上、さらには、共生社会の実現に向けた取り組みを推進することが求められています。

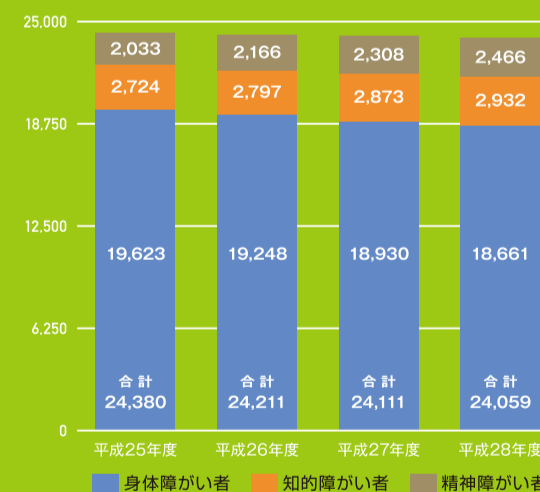
共生社会の実現とは？

障がいがある、ないにかかわらず、女の人男の人、お年寄りも若い人も、全ての人がお互いの人権や尊厳を大切にし、支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる社会を「共生社会」といいます。障がいのある人もない人もともに支え合い、さまざまな人々の能力が発揮されれば、活力にあふれる社会になるはず。

高松市の障がい者数は24,059人、知的障がい者や精神障がい者が増加傾向です。

平成28年度高松市の障がい者数は24,059人(身体障害者18,661人、知的障がい者2,932人、精神障がい者2,466人)であり、総数は減少傾向にありますが知的障がい者や精神障がい者が増えています。また更に、発達障がいへの認知が進むに従い、問題も複雑化・多様化してきており、その対応が求められます。

● 高松市の障がい者数の推移 ●



障がいの有無にかかわらず、誰もが必要とされる社会へ。

日本は人口減少期に突入し、ついに高松市でも平成28年に減少に転じました。働き手(生産年齢人口)も減少し、既に多くの事業所が人手不足で困っており、国では「働き方改革」がキーワードとなっています。その一方で障害者手帳所持者数は増え続け全国で約860万人(国民の6.7%)となり、障がい者の雇用率が向上してきたとはいえ、実際に一般就労を果たしている障がい者は約50万人程度といわれ、ここにも担い手としての可能性が秘められています。障がい者だけではなく、子育てや闘病、介護など様々な理由で働きたくても働けない人はたくさんいます。誰もが社会に貢献し、一人ひとりの長所が活かされるようになるために、さまざまな障壁を取り除くことが、雇い主や社会に求められているのです。共生社会を目指すことは、これからの働き方を考える大きなヒントになると考えています。



春風通信 はるかぜつうしん VOL.13

発行者: 高松市議会議員 春田敬司
発行日: 2018年5月
連絡先: 〒761-8013 高松市香西東町14番地8
電話: 087-842-5730

春風座談会

誰もが活躍できる



多様な働き方を認める社会へ。

就労支援に特化した『ラ・レコルト』の働き

春田 昨年の暮れに事業所開設のご案内をいただき大変驚いたのですが、桑嶋さんは、全くの異業種から何故、『就労移行支援事業所ラ・レコルト』の事業、障がい者の就労支援の事業を始めようと思ったのですか？

桑嶋 私はこの世に存在する人すべてが、誰かに必要とされている人たちだと信じています。実際にその人を支えてくれる人は沢山いるのに、その一方で自信を失い、生きる目標を見いだせず必要とされていないと感じている人が多くなっている現実、心に痛めていたところ、京都の同業者からこの『就労移行支援事業』と一般社団法人社会福祉支援研究機構のことを紹介いただいたのがきっかけです。

春田 この新たな事業所、ラ・レコルトの特徴・魅力は何ですか？



桑嶋 利用者がそれぞれの自分のペースで通所いただき、自分の得意なことや能力、やりたいことが何なのかを見つけ出し「自分はこんなにできるんだ」と自信をもって社会に羽ばたいてほしいとの思いから、会社名を(株)はばたけとしました。一人の人として待ってくれる場所、人から必要とされる喜びを感じられる居場所でありたいと思っています。その上で、一人ひとりに合わせた就労プログラムをお一人おひとりに合った形で身に付け、自主的な取り組み



高松市議会議員
春田 敬司
はるといし



株式会社はばたけ 代表取締役
株式会社中央 代表取締役
桑嶋 貴史
くわじま たかし



一般社団法人 社会福祉支援研究機構 理事長
佐野 敏夫
さの としお



を尊重している中で、P検(ICTプロフィシエンシー検定協会)やMOS(Microsoft)といったPCスキルやコミュニケーション学習など基礎資格から簿記、行政書士などの専門資格まで幅広いメニューがあり、事業所内で受験できるメニューや資格を学ぶ努力を無駄にしないために、一定期間継続的に通い学習することで合格することができる『試験免除プログラム』を用意していることも大きな特徴です。

春田 そのメニューやノウハウを提供している、一般社団法人社会福祉支援研究機構の佐野理事長さんにお伺いします。資格を取得することを推奨する理由は何ですか？

佐野 私共は一般就労という長期目標に向かう過程として、短期的な目標として資格取得を推奨しています。取得した資格が直接役に立つ場合もありますし、そうでなくても、資格を取得するまでに、いつまでに何を身に付けたいといけないうえ、考えやり遂げることで自信が生まれ、物事に取り組む姿勢として評価されるかと考えています。



春田 このように、利用者にとって魅力的な資格取得プログラムを提供できるのは、障がい福祉を目的とした『社会福祉支援研究機構』への信頼と全国に広がる加盟事業所(45ヶ所)のネットワーク力があるからですね。しかし、私が一番注視しているのは、ほとんどの事業者が訓練給付の就労継続支援(A型・B型)や介護給付の居宅介護や生活介護などの事業と一緒にこの『就労移行支援』を行っているのに、単独で経営していること、利用者の就労を支援する仕事なので、的確な支援をするほど、利用者が卒業して経営が不安定になるといった困難さがあると思うのですが？

佐野 おっしゃる通りです。しかし私共は、障がいや病気などの困難を抱える人にとって『一般就労』の実現は、自己実現の最初の大きな一歩と考えています。不安を抱えながら無理して働くよりも、環境を整える期間は必要です。しかし、理由なく必要以上に時間が過ぎていくのは得策とは言えません。就労移行支援事業に通いはじめる決断をした方に、その気持ちを高めながら働く準備を整え、その方の最適で最短な一般就労を叶えたいと考えています。

桑嶋 創業の理念と志を忘れないためにも、覚悟して取り組んでいます。その為にも、様々な機関・人とのネットワークを築き、選ばれる事業所になることが求められます。

誰もが安心して働ける地域が生き残る

春田 桑嶋さんは高松青年会議所の理事長をなさっていたことで、多くの人との繋がりと信頼があります。優れた経営者として福祉分野からだけでは実現できない、支え合いの地域づくりのキー

就労移行支援事業所「ラ・レコルト」とは

障がいや病気などをもちながら一般就労のチャンスを持つ方々のために、『社会福祉支援研究機構』は、就労移行支援事業所を全国に広げる活動を行っています。その事業所のひとつとして、『株式会社はばたけ』によって開設されたのが『ラ・レコルト高松瓦町』です。利用者が自分の得意なことや能力、やりたいことが何なのかを支援プログラムを通して見つけ、自信や自己肯定感を持って社会に羽ばたくためのサポートを行っています。

ラ・レコルト高松瓦町●高松市瓦町2丁目7番地14号 フォルテ瓦町駅前ビル3階 Tel.087-899-2001(10:00~15:00/日曜日を除く)

マンと期待しています。今、国を挙げて『働き方改革』と言っていますが、障がいの有無も関係なく、誰もが安心して働ける環境が大切になってきます。その為にも受け入れる側の事業者も変わらなければならないと考えています。でもその多様な働き方を提供できる組織に変革を成し遂げた事業所と地域が、生き残ることが出来ると考えています。

桑嶋 企業側が仕事のやり方を変えること、例えば仕事の内容を細かく分解して誰もができるようにすることや、時間を分けて働き手を受け入れるなど、働き方の仕組み自体を変えていくことで、企業自身が強い体質になると考えています。

佐野 私共は、障がいや病気などを持つ方々の積極的社会参加と自己実現への大きな一歩を踏み出していただくために、支援される側から働き納税者として社会貢献できる人を全国で毎年2000名を生み出せることを当面の目標にしています。その為にも政治の力も必要です！

春田 これからも、みんながお互いに知恵と力を合わせて、地域の未来を創っていきましょう！



春田の障がい者支援への議会における取り組み



●平成19年6月 定例会(7月9日)初めての一般質問
傷病者や障がい者など、ハローワークとの連携だけでは対応の届かない方への自立支援・就労支援のために新たな人材バンクの創設を提案。

●平成19年12月 定例会(12月14日)一般質問
保育所に病気や障がいをもちた子供への対応のため看護師の配置・派遣する制度の創設を要望。

●平成20年6月 定例会(6月19日)一般質問
都市鉱山として問題となった携帯電話の中にある希少金属を回収するため、障がい者援助施設で廃棄携帯電話の処理を行う事業を行うことを提案。

●平成22年6月 定例会(6月21日)一般質問
障がい者自立支援と就労支援について、①総合窓口の設置、②障害者就業・生活支援センターにジョブコーチ等の相談員の追加配置、③地域自立支援協議会と民間とのコーディネート機能の強化、④知的障がい者の相談実施箇所の増加、⑤障害者自立支援・居住サポート事業対象者について、市営住宅入居時における連帯保証人の免除。

●平成24年3月 定例会(3月13日)質疑

富士宮市への視察を通じ、福祉総合相談課を設け地域の見守り体制の強化を強く要望する。



●平成27年6月 定例会(7月3日)一般質問
障がい者の親亡き後の住まいの場が不足していることを訴えその拡充を要望する。また、障がい者優先調達における役務の拡大と公表方法を拡充することを要望する。

●平成28年6月 定例会(6月16日)一般質問
発達障害支援における早期療育の重要性に対する市長の考えを質し、発達障がいをめぐる子育てと保育・療育環境の充実を強く要望する。基幹総合支援センターの必要性を訴える。
※平成30年4月、基幹相談支援センター開設。
(詳しくは下記に記載)

●平成29年6月 定例会(6月14日)代表質問
地域共生社会の実現に向け、対応を行うよう求めた。

基幹相談支援センター一覧

中核拠点	地域拠点
高松市障がい者基幹相談支援センター 福岡町二丁目24-10 Tel.087-880-7012	障害者生活支援センターたかまつ 田村町1114 担当地域 鶴尾・太田・太田南・弦打・鬼無・香西・下笠居
担当地域 松島・築地・新塩屋町・四番丁二番丁・日新・亀阜・女木・男木	地域生活支援センターこだま 木太町1997-3 担当地域 花園・栗林・木太
	障害者生活支援センターあい 前田東町585-21 担当地域 古高松・前田・川添
	障害者地域生活支援センターほっと 川島東町1914-1 担当地域 川島・十河・西植田・東植田・塩江
	障害者相談支援センターりゅううん 仏生山町甲2436-1 担当地域 林・三谷・仏生山・多肥・一宮・香川
	地域活動支援センタークリマ 牟礼町原883-16 担当地域 屋島・牟礼・庵治
	相談支援事業所ライブサポートセンター 岡本町60-1 担当地域 川岡・円座・檀紙・香南・園分寺

就労移行支援とは

障がい者への福祉サービスの基本的な部分は、地域社会における共生の実現に向けての理念のもと、「障害者総合支援法」に規定されています。就労移行支援は、この法によって定められた障がい福祉サービスのひとつです。就労移行支援事業所では、企業などで働きたいとの意思を持つ障がいのある方に対して、作業や実習、適性に合った職場探し、就労後の職場定着のための支援などを実施しています。通所によるサービスを原則としつつ、個別支援計画の進捗状況に応じ、職場訪問などによるサービスを組み合わせています。65歳未満の障がいのある方を対象に、標準期間(24ヶ月)内で利用期間を設定しています。

障がいに関することならまずここに相談

基幹相談支援センターが開設しました！

障がい者が住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるように支援する総合的な窓口です。障がいの種別にかかわらず、総合的・専門的な相談や情報提供を行い、適切なサービス事業所とも連携します。

例えばこんな相談を

- 利用できる福祉サービスが知りたい
- 1人暮らしの障がい者が困っている様子だ
- 障がい者の権利擁護や虐待防止

お問い合わせ

高松市障がい福祉課

087-839-2333

